

留 学 生 通 信

サンディエゴ、カリフォルニア州 に行こう！

Let's Go! San Diego, California



山崎 拓

Taku YAMASAKI

■2009年カリフォルニア大学・サンディエゴ校機械工学部卒業および日本史学科卒業、(2008年～2009年 東京大学工学部産業機械工学科 留学)

■勤務先

Full Potential Motorsports (オフロード用レースカーを作る会社)

(31881 Corydon Rd. #140 Lake Elsinore, CA 92530 / E-mail : yamasaki009@gmail.com)

1 はじめに

私はカリフォルニア州のサンノゼに生まれた。両親は日本から来たが、アメリカで知り合って結婚した。私は6人家族の末っ子だ。2歳のとき家族はカリフォルニア州の田舎町モデストに引っ越した。世界的にあまり知られていないが、実はモデストは有名なワイナリ「ガロ」の生産地である(図1)。

アメリカの教育を受けた僕は同時に独学で日本語を勉強した。高校時代もっと日本の文化を習いたかった僕は大学で日本に留学することを決めた。2004年にカリフォルニア大学、サンディエゴ校に入学し、美しい海岸沿いの町ラホイヤに引っ越した(図2)。

1年から機械工学専門に決めて、4

年間頑張って結果が出たので、最後の学年に留学する機会を得ることができた。

2 アメリカの高等教育の紹介

アメリカの義務教育は日本と違って、高校までである。アメリカの大学入試は直接入学試験を行わない代わりに高校生のクラブ活動が厳しく評価される。一流大学に入るため、アメリカの生徒は優れた成績が必要なうえ、アルバイト、奉仕活動、クラブ活動等いろいろの個人的な体験が必要だ。

アメリカの大学は入学金はないが、学費は日本と比較して何倍かの差がある。国立大学の平均学費は1年に約1万ドル(92万円)である。カリフォルニアの国立大学院の修士の1年学費は約3万～4万ドル(276万～



図1 モデストのガロワイナリのワイン



図2 カリフォルニアの人気海岸沿いの町サンディエゴ・ラホイヤ



図3 カリフォルニア大学・サンディエゴ校のシンボル「ガイゼル図書館」



図4 南カリフォルニアにしかない人気の「カリフォルニアブリトウ」

368万円)だ。しかし日本と違って多くの大学生はアメリカの政府から返さなくてもよい奨学金がもらえる。

一流大学に入学しても、4年間で卒業できる学生の比率は非常に少ない、たったの36%だ。今は5、6年かけて卒業することが一般的になってきている。この理由はアメリカの高等教育の方針の厳しさにある。

3 大学生生活

大学の授業の試験は高校の試験と比べてはるかに重要と感じられている。基本的に大学は高校の次の段階とされているから、大学生は高校時代よりもっと頑張る必要がある。私の大学のシンボルはガイゼル図書館である(図3)。キャンパスの真ん中にあり、本

学の学生たちにとって「もう一つのホーム」と思われている。この呼び方は図書館で過ごす時間が自分の部屋にいるより長いからである。試験の前日にガイゼルで徹夜をすることも本学の伝統である。

大学の勉強は大変だが、夜中の2時にサンディエゴにある有名な「カリフォルニアブリトウ」を食べに行くのも人気の伝統である(図4)。中身はカルネアサダステーキ・チーズ・サワークリーム・アバカド・ポテトフライがたっぷり入っている。大学生に対してこのブリトウはサンディエゴの本当の名物と思われている。サンディエゴはたくさんのおいしい食べ物があるうえ、キャンパスは海辺からたった10分の距離だ。この美しい町は1年

中平均気温が15.6度から21.1度なので、いつでも海に遊びに行くことができる。

4 おわりに

日本語や日本の文化などいろいろ勉強してきたが、実際日本に留学するまでは本当の日本のことはまったく知らなかった。いくら教科書から学んでも自ら体験しなければわからないことが山ほどあった。機会があればまたいろいろな国へ行ってみたい。目的は勉強や旅行や人との出会いであり、海外の体験は人生で一番素敵な思い出になることと思う。